

今福線との縁

行武 宗軌

1. はじめに

遅まきながら技術士となり、平成 29 年度に島根県技術士会に入会させていただいたからには、いずれかの研究分科会で活動したいとは考えていたが、いずれの分科会も魅力的で決めかねていた。そのような中、今福線研究分科会に参加した理由は大きく二つある。

一つ目は、子供の頃から鉄道が好きで、いつの頃からか幻の鉄道「広浜鉄道」の存在も何となく知っていたため、最も気になる分科会であったからである。

二つ目は、これが決定的であるが、入会后、初めての新年例会において、今福線研究分科会が私の大学時代の同級生である岡山大学大学院樋口輝久准教授と連携して活動していることを知ったからである。

かくして活動に参加させていただくこととなったが、今年で 11 年目という長い活動を行っている分科会のメンバーの中では、圧倒的に今福線に関する情報が不足しているため、まずはこれまで得た情報を整理する目的で、過去 2 年間の分科会活動への関わりを振り返るとともに、今年度の活動参加報告や現在今福線が置かれている立場を考察してみたい。

2. 平成 30 年度から 2 年間の関わり

(1) 平成 30 年度の活動参加

11 月 3～4 日に行われた現地踏査に参加した。現地踏査では、下長屋トンネル中間地点及び有福第四トンネルの調査等が行われた。

下長屋トンネル中間地点での調査では、トンネル建設時の痕跡（構造物や切土跡、用地境界杭など）を探したものの新たな発見はなく徒労に終わったかと思えたが、現地踏査後に偶然出会った近所の方から工事に纏わる新たな情報を得られた。また、有福第四トンネルの調査では、今までその坑口を見たことのないトンネルを探し出したりすることができ、フィールドワークの大切さを痛感させられた最初の活動であった。

(2) 令和元年度の活動参加

まずは、8 月 31 日に行われた第 1 回打合せに参加した。といいながら、その後は計画された活動に都合のつく日がなく、それが唯一の活動参加であった。しかしながら、打合せ後に行われたマップ更新のための現地視察において、下府駅～今福第五トンネルまでの間の施設の概要が確認できたことが個人的には大きな収穫となった。

3. 令和 2 年度の活動参加

今年度は、コロナ禍もあり、活動自体が行われなかつたかと思われていたが、和田幹事の御尽力により、ここぞというタイミングで 11 月 8～9 日に開催された。

当日は、旧線 4 連アーチ 3 橋及び今福第 6 トンネルの現地調査及びマップ更新の意見交換等を行い、さらには NPO 法人江の川鐵道の日高弘之理事長、森田一平氏と旧三江線宇都井駅の土木遺産認定に向けての意見交換等を行った。

なお、今回の活動においては、未成線を研究し、11 月に「走らなかつた鉄道」という書

籍を発刊された旅行ライターの松村真人氏も参加された。参加の経緯を確認すると、たまたま島根県技術士会 HP で活動開催案内を見られ、連絡しての参加とのことだった。

現地調査では、3年目にして初めてアーチ橋やトンネルの現地計測に参加することができた。また、そこで得られた現地調査情報は、その直後のマップ更新の意見交換においても有用で、これまでの活動で蓄積された情報はあっても現地調査による更なる情報蓄積は重要だと感じた。

さらに、今回、とくに有意義だったのは、他の方との意見交換である。NPO 法人江の川鉄道との意見交換は、NPO 法人を設立して活動していること、各種グッズを販売することで活動資金を得るなど、地域活性化の取り組みは今福線の一步も二歩も先を行っていると感じられ、大いに参考になった。また、旅行ライターの松村氏とは、数々の未成線を調査してきた情報から各地の先進的取り組みを垣間見ることができ、同じく大いに参考になると感じた。

加えて、その後、12月13日に行われた NPO 法人江の川鉄道の案内による宇都井駅見学会では、奥出雲町で AR/VR コンテンツ開発や映像製作をしている企業の山田宏道社長に会い、例えば未成線である今福線に AR/VR の世界で列車を走らせるという今福線がさらに楽しめるのではないかと想像が膨らんだ。

以上の活動参加を通して、私としては、ようやく今福線分科会活動のスタートラインに立てた気がした。

4. 今福線が置かれている立場

知る人ぞ知る今福線が、2008年に「コンクリートアーチ橋群」として土木学会選奨土木遺産に認定されて以降、2010年には島根県技術士会今福線分科会の活動が始まり、2015年に「広浜鉄道今福線を活かすシンポジウム」の開催、2016年に沿線自治会を中心とした「今福線を活かす連絡」の設立と加速度的に活動が広がっている。

さらには、2019年にフジテレビのドラマ「砂の器」及び「悪魔の手毬唄」で、くらもちふさこ原作の映画「天然コケッコー」（2007年）以来のロケ地として使用され、2020年からは「しまねインフラツーリズム」で紹介されるなど、徐々にではあるが一般的な知名度を得つつある状況である。

来年度は、1年延期された「第3回全国未成線サミット」が浜田市で開催される予定であり、さらなる活動の発展が期待される。

5. おわりに

今回、この報告文を書くにあたり、まずは今までの分科会活動報告を読み返すことから始めた。また、様々な資料を確認していたところ、浜田市の HP で「幻の広浜鉄道今福線を巡る」（石本恒夫著、2019年）を見つけ、今福線の概要を知るうえにおいて大いに役立った。今福線との関わりは未だスタートラインに立てたかどうかだが、これも何かの縁、大いに楽しみながら自分なりの技術的関わりを模索してみたい。